

研究・調査報告書

| 分類番号 | 報告書番号 | 担当 |
|--|--------|--------|
| C-141 | 13-301 | 慶應義塾大学 |
| 題名 (原題/訳) | | |
| Efficacy of acamprosate for alcohol dependence in a family medicine setting in the United States: a randomized, double-blind, placebo-controlled study. 米国の家庭医療におけるアルコール依存症に対するアカンプロサートの効能 無作為二重盲検プラセボ対照試験。 | | |
| 執筆者 | | |
| Berger L, Fisher M, Brondino M, Bohn M, Gwyther R, Longo L, Beier N, Ford A, Greco J, Garbutt JC. | | |
| 掲載誌 | | |
| Alcohol Clin Exp Res. 2013 Apr;37(4):668-74 | | |
| キーワード | | |
| アカンプロサート、アルコール依存症、家庭医療 | | |
| 要 旨 | | |
| <p>背景</p> <p>アカンプロサートが、完全な断酒の率を強化して、プラセボ治療に比べてアルコールから断酒できた日数の割合 (PDA) を増加させることが知られている。アカンプロサートの米国の臨床試験の大部分がアルコールや他の薬物依存の専門クリニックで行われていたため、一般診療医でのアカンプロサートの効能を調べる必要がある。本研究は、家庭医療の設定で、アルコール依存的な患者の治療で、PDA を第 1 の研究成果に関して、有効性についてアカンプロサートの効果をプラセボと対比して検討した。第 2 の研究成果として、大量飲酒をした日の割合 (%HDD) と γ-グルタミルトランスフェラーゼ活性 (正常か高いか) について検討した。</p> <p>方法</p> <p>アカンプロサートの無作為二重盲検プラセボ対照、平行したグループの研究は、2 つの家庭医の設定の (North Carolina と Wisconsin) 下に行われた。100 人のボランティアは主に広告によって集められた。そして、参加者は 12 週間の期間、毎日 3 回 (1,998mg/d) 666mg (2 錠のピル) 摂取する経口アカンプロサート群または対応するプラセボ群に割り当てられた。すべての参加者は、家庭医/プライマリケア医から短い行動介入の 5 つのセッションを付随して受けた。</p> <p>結果</p> <p>アカンプロサートは、PDA または第 2 の結果で、有意な治療作用を見つけれなかった。時間的交互作用効果による有意の治療目的は、PDA と %HDD で見つかった。最初の目的が断酒であった参加者対アルコール摂取の減量であった参加者は、全時間の平均として PDA においてよい結果であり、治療の終了まで治療前のベースラインより少ない %HDD であった。</p> <p>結論 :</p> <p>この臨床試験で、プライマリケアの設定で、主に広告によって参加者が集められたアルコール依存的な個人でプラセボと比較した結果、アカンプロサートの有効性のエビデンスは見つけれなかった。薬物投与の状態に関係なく、飲酒に関する結果は有意に改善された。断酒のゴールは飲酒による影響の改善に有意に関係していた。そして、そのようなゴールでアルコール依存的な患者を家庭医療の設定であっても、カウンセリングで特によくする可能性があることを示唆した。</p> | | |